

見聞録

WHEC2000 国際アドバイザーボードメンバー会議 記録報告

水素エネルギー協会副会長
東海大学 教授 内田 裕久

北京で開催された WHEC2000 会期中、6 月 13 日、12:00 から IAHE のアドバイザーボードメンバー (ABM) 会議が開催された。出席者は 27 名で、ドイツ、米国、韓国、イタリア、スウェーデン、メキシコ、ウクライナ、カナダ、ロシア、ユーゴ、中国等から委員が出席した。

本報告者ははじめて WHEC に参加し、国際アドバイザーボード会議の経験も初めてであり、その雰囲気や HESS 理事会に報告したい。

Prof. Veziroglu が議長として ABM 開催挨拶を行い、各国委員の自己紹介と続き、以下の事項について報告、審議、討論が行われた。

1. IAHE の会員数報告(2000 年 5 月現在)

- ・会費支払い会員数：838 人(うち団体会員数は 4)
- ・開発途上国などの会費未納会員数：250 人

2. IAHE 会員数の増加方法について

- ・特に企業団体会員数を増やしたい(Veziroglu)
- ・各国の水素エネルギー関連協会が各国で企業団体会員をもっており、その会員を IAHE の団体会員へと勧誘するよう、各国が努力すべきである(カナダ委員)
- ・Veziroglu 議長からは賛成の意が表され、参加会員の IAHE 会費を 10~20%程度、安くすることで実施したく、本部で検討するという話であった。
- ・日本では燃料電池実用化に向け企業が水素に興味を示すものの、現在の経済事情では企業団体会員の増加獲得に HESS は困難な状況にあるという状況を報告した(内田)

3. WHEC2002、WHEC2004 開催決定について

- ・Veziroglu 議長から以下のような報告があった。
- ・2004 年の WHEC 開催について正式には 3 カ国(日

本、韓国、スウェーデン)から立候補があった。さらに、スイス、イタリアから突然の立候補があり、計 5 カ国が立候補した経緯があった。

IAHE 理事会での審議の結果、第 15 回 WHEC2004 は日本、横浜で開催することになった旨が報告された。

- ・代替案として、スウェーデンがノルウェー、フィンランド、デンマーク、アイスランドと共同で HYDROGEN FORUM を開催する可能性が議長より報告された。

- ・また、韓国については第 15 回以降の WHEC へ、または HYFORUM2005 へ立候補する議長提案があった。

- ・スイスについても HYFORUM、または第 16 回 WHEC への立候補を議長が提案した。

いずれにせよ第 16 回以降の WHEC はオープンであり、スウェーデン、韓国、スイス等、積極的に立候補して欲しい旨が議長より伝えられた。

4. HYFORUM 2000

- ・Prof. Winter(ドイツ委員)より HYFORUM2000 の目的、準備状況について説明があった。

水素マーケットの浸透は不十分である。水素専門家以外にも水素利用に興味をもたせる必要がある。

HYFORUM2000 はこの視点から銀行、投資事業、政策関係者を大規模に参加させ、経済、政治を巻き込んだ新しい水素社会にむけたアプローチを狙っている。

- ・Veziroglu 議長より IAHE が HYFORUM2000 を支援する旨が話された。

5. HYPOTHESIS 2001

- ・Prof. Lehman から、2001 年開催予定の HYPOTHESIS 2001 の説明があった。

6. 米国委員質問—WHEC・HYFORUM・HYPOTHESIS の違いについて

・Veziroglu 議長より、competitive な部分と違った目的もあるが、どの主催者もこのアドボードメンバーであり、この ABM で整合性を持たせたい、との回答があった。

7. 米国委員提案—CO₂ 削減に関する各種集会、委員会などと IAHE とのリンク強化

・Vziroglu 議長が積極的に賛成の意を表した。

8. ユーゴ委員提案—バルカン地域 Solar--Hydrogen Forum 形成案

・IAHE への支援要請があり、Veziroglu 議長から快諾された。

9. 各国の水素エネルギー協会開催予定、活動予定情報を IAHE インターネット公開 Veziroglu 議長より報告があった。

10. 水素関連国際集会に対する見解

議長より、WHEC、HYFORUM、HYPOTHESIS、NESC 等、いろいろな水素関係の集会在開催されているが、これは歓迎すべきことで、多くの異なる形態の集会有れば、出席する人々も異なる分野からの出席者になる可能性は大きい。これは水素エネルギー社会を実現するには重要なことであると、議長から現在多数ある水素エネルギー関係の国際集会への感想が述べられた。

11. 各国からの報告

・日本からの報告として、WHEC 2004 が横浜に決定されたことに感謝する、準備開始に向けて努力したい。通産省を始めとする政府研究機関、トヨタ、ホンダ等の自動車企業は積極的に WHEC 2004 を支援する意志を表明しているので期待して欲しい。各国のご支援をお願いしたい。以上の内容を内田が報告した。

この後、各国から今後開催予定の集会案内などが報告され終了した。

12. 補 足

・PWSCHTM 委員会

6月14日、12:00 から IAHE に置かれている水素と材料の問題を研究し、定期的に国際集会開催や出版物を発行している Permanent Working Scientific Committee on Hydrogen Treatment of Materials (PWSHTM)委員会が開かれた。北京に出席したメンバーのみで、Prof. Veziroglu、Prof. V. Goltsov、内田の8名であった。

・Int. Conf. on HTM2001

2001年5月にウクライナのドネツクで材料関係の国際会議を開催し、Int. J. Hydrogen Energy に収録する発表論文数の打合せを行った。

・Eco Material 国際会議

最近の動きとして、日本では科技厅が中心に環境負荷の小さい材料—エコマテリアル—開発を進めている。内田は科技厅が主催する Int. Conf. on ECO—MATERIAL (Oct. 2001 Hawaii, USA) の実行委員長として準備中であり、Environment Conscious から定義される E-CO(エコ)の説明を行い、水素関連の研究も含む方向を報告した。

Prof. Veziroglu が ECO-MATERIAL 国際会議への支援を表明し Int. J. Hydrogen Energy に開催案内を掲載することになった。また Prof. Veziroglu へエコマテリアル国際会議への参加要請を行った。